

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本健康医療専門学校
設置者名	学校法人 創志学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復学科 (3年制)	夜・通信	1,540 時間	80×3=240 時間	
	鍼灸学科 (3年制)	夜・通信	1,965 時間	80×3=240 時間	
商業実務課程	ライフケア学科 (2年制)	夜・通信	240 時間	80×2=160 時間	
	ライフデザイン学科 (2年制)	夜・通信	210 時間	80×2=160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。</p> <p>(柔道整復学科) https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure01-1.pdf</p> <p>(鍼灸学科) https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure01-2.pdf</p> <p>(ライフケア学科) https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure01-5.pdf</p> <p>(ライフデザイン学科) https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure01-6.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学科
なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本健康医療専門学校
設置者名	学校法人 創志学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://seg.ac.jp/roll/list.pdf>
上記HPに掲載している。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	大学教授	令和2年3月9日～令和5年3月8日(3年間)	当学園の運営における 教学面に関する 助言・指導
非常勤	大学教授		
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本健康医療専門学校 (柔道整復学科(3年制)、鍼灸学科(3年制)、ライフケア学科(2年制)、ライフデザイン学科(2年制))
設置者名	学校法人 創志学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全授業科目の授業概要(シラバス)を作成し、全学生に周知している。授業概要(シラバス)の内容は毎年度更新され、授業内容や評価の観点を明確にしている。</p> <p>また、授業概要(シラバス)の作成に際しては、授業科目の主題とそのねらいを明確にしている。更に授業の目的・内容・方法等が、各学科の人材養成の目的、卒業認定・専門士授与の方針と合致するように構成されているかを、学科内で十分に審議している。</p> <p>具体的には、以下の事項を記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 授業の基本情報(授業科目名、科目区分、担当者名、配当年次、単位数、授業方法) ② 授業の概要 ③ 授業の到達目標 ④ 授業の方法 ⑤ 準備学習(予習・復習等) ⑥ 成績評価方法 ⑦ 教科書・参考書 <p>「授業概要(シラバス)」の作成・公表時期に関しては、毎年度科目担当者が決定する翌年1月に作成を開始する。その後3月の各学科の学科会議にて、翌年度の授業計画を承認し、3月下旬にシラバスをHP上に公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	HPに掲載(URLは次のページ)

(柔道整復学科 1 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-1.pdf

(柔道整復学科 2 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-2.pdf

(柔道整復学科 3 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-3.pdf

(鍼灸学科 1 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-4.pdf

(鍼灸学科 2 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-5.pdf

(鍼灸学科 3 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-6.pdf

(ライフケア学科 1 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-7.pdf

(ライフケア学科 2 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-10.pdf

(ライフデザイン学科 1 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-11.pdf

(ライフケア学科 2 年生)

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure04-12.pdf

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本校では、各教科を授業計画（シラバス）通りに授業を実施し、各教科の終了をもって定期試験等を行うことで各学生の評価を行う。

単位認定と成績評価の方法・基準等は以下の通りである。

(1) 単位認定

本校学則第 28 条（成績評価）の項において、「学業成績は、各期試験毎に、学科試験（実習・事件を含む）の成績及び出席日数等を考慮して評価する。なお、追・再試験については、その追・再試験の成績をもとに評価する。」と定め、この規定を厳正に適用している。

(2) 成績評価の方法・基準等

本校試験規程第 19 条において、「授業科目の成績評価は 85 点以上を優、70 点以上 85 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可と表示し、優、良及び可を合格とする。」と定めている。

優：100～85 点

良：84 点～70 点

可：69 点～60 点

不可：59 点以下

また不合格（60 点未満）となった場合は、学則第 27 条の規定により、再試験を一度に限り実施し、その試験において 60 点を満たした場合は合格とする。

また、各教科の出席コマ数が総授業コマ数の 4/5（80%）に満たない場合は、例え試験結果が合格であっても評価を取り消し、不可（不合格）としている。

上記のとおり、単位認定と成績評価の方法、基準については、学則やシラバスにおいて学生へ明示し、4 月に行われるオリエンテーションにおいて周知徹底している。

また、当該年度のすべて教科の評価が行われてのち、年度末において各学科で開かれる進級判定会議及び卒業判定会議において各教科の評価妥当性を審議することにより、当該年度の最終評価を決議し承認を行う。

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校の試験規定には下記の通りの成績評価を規定している。</p> <p>優：100～85点 良：84点～70点 可：69点～60点 不可：59点以下</p> <p>この成績評価基準は学則として学生に配布をしてオリエンテーションにおいて周知徹底されている。またこれとは別に各教科の試験実施後は、すべての学生の得点状況を集計して得点上位者順に並べることで、学修習熟度を把握し、得点下位者に対して指導警告をしている。指導には単にやる気を促すようなものだけではなく、次のような指導を行っている。①具体的に課題を与えることで習熟度を補填する。②学生の生活状況の把握をすることで学習時間や方法の改善をする。③ご家族と連絡を取ることで、多くの時間を過ごしているご家庭の協力を得る。など、様々な指導を行っている。</p> <p>成績表については年に2回、学生本人へ配付し、ご家庭へは郵便にて送付している。</p> <p>また、各学科において毎年保護者会を実施して、3者面談で成績の詳細を伝えている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure05.pdf</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めている。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、専門士を授与する。

柔道整復学科・鍼灸学科

1. 社会に貢献できる医療従事者として人体の構造や機能を理解していること。
2. 東洋医学・西洋医学に関する幅の広い知識を身に付け、医療の現場で施術をもって解決する能力と技術のあること。
3. 患者に対して深い愛情と積極的な理解をもって接することができること。

ライフケア学科・ライフデザイン学科

1. 日本の産業界で即戦力として活躍できる人材としての技能や知識、そしてマナーを身につけていること。
2. 社会人として常に自己研鑽のできる能力、あらゆる人間関係に対応できる能力があること
3. 困難に対する方策を見つけ出し、粘り強く立ち向かう人間力があること。

そして本校の卒業要件は学則において次のように規定されている。

学則第 29 条 進級・卒業の認定は次の基準により、教務会の議を経て校長が決定する。

- (1) 前期成績と後期成績における各科目の成績が 60 点以上の者
- (2) 年間延欠席日数が 40 日未満の者
- (3) 所定の学費を納入した者
- (4) その他適当と認められた者

修業年限におけるすべての試験が終了したのち、各学科で卒業判定会議を開催し、上記に規定される卒業要件に該当することを改めて確認を行う。卒業の認定にあたっては、各学生が学科において規定されている修了単位数を取得していることについての判定が最も重要であり、これについては客観性を厳正に適用している。それと同時に、会議においては各学生への教育が本校の掲げる教育目標に到達しているかを確認している。

本校では卒業認定の方針を策定し、HP に公表している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure06.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本健康医療専門学校
設置者名	学校法人 創志学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure07.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure08.pdf
財産目録	https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure09.pdf
事業報告書	https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure10.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure11.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科 (3年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,765 単位時間／118 単位	1,745 単 位時間 /93 単位	0 単位 時間 /0 単位	860 単位 時間 /21 単位	0 単位 時間 /0 単位	160 単位 時間 /4 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員 数	総教員数		
360 人	290 人	0 人	9 人	18 人	27 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法 (概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準 (概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等 (概要) 全授業で小テストや中間テストなどを行うことで学生の習熟度を見逃さないようにしている。成績の維持向上が認められない場合は、課題を与えたり、生活の状況を把握をすることで自習時間の確保や生活状況の改善を促している。生活の大半を家庭での過ごすところから、ご家族のご協力は欠かせない。問題が顕在化してからではなく、出席状況や学校での態度に目を配り、必要であれば連絡を取り、協力とご指導をお願いする。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
65 人 (100%)	2 人 (3%)	60 人 (92%)	3 人 (5%)
(主な就職、業界等) 株式会社 クラシオン 株式会社 OBAMA 株式会社リーフ 株式会社 あおば 株式会社 SYNERGY JAPAN 株式会社 シー・エム・シー 株式会社 ゴキゲンホ ネグミ			

(就職指導内容) 年3回、学内で求人する企業を招き就職セミナーを実施している。
(主な学修成果(資格・検定等)) 国家資格 柔道整復師
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
260人	20人	7.6%
(中途退学の主な理由) 進路先不適合。経済的理由によるもの、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談は随時実施して学生の学習や生活状況を把握し、個別の指導を行っている。 保護者会を実施することで、家庭での生活や学習状況を把握し、ご家族のご協力をお願いしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科 (3年制)	○			
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,665 単位時間/100 単位	2,035 単 位時間 /81 単位	0 単位 時間 /0 単位	630 単位 時間 /19 単位	0 単位 時間 /0 単位	0 単位 時間 /0 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生 数	専任教員数	兼任教員 数	総教員数	
180 人		134 人	0 人	7 人	6 人	13 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
(概要) 全授業で小テストや中間テストなどを行うことで学生の習熟度を見逃さないようにしている。成績の維持向上が認められない場合は、課題を与えたり、生活の状況を把握をすることで自習時間の確保や生活状況の改善を促している。生活の大半を家庭での過ごすところから、ご家族のご協力は欠かせない。問題が顕在化してからではなく、出席状況や学校での態度に目を配り、必要であれば連絡を取り、協力とご指導をお願いする。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
43 人 (100%)	0 人 (%)	41 人 (95.3%)	2 人 (4.7%)
(主な就職、業界等) 株式会社 クラシオン 株式会社 OBAMA 株式会社リーフ 株式会社 あおば 株式会社 SYNERGY JAPAN 株式会社 シー・エム・シー 株式会社 ゴキゲンホ ネグミ			
(就職指導内容) 年3回、学内で求人する企業を招き就職セミナーを実施している。			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 国家資格 はり師・きゅう師
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
137 人	4 人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路先不適合。経済的理由によるもの、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談は随時実施して学生の学習や生活状況を把握し、個別の指導を行っている。 保護者会を実施することで、家庭での生活や学習状況を把握し、ご家族のご協力をお願いしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業専門課程	ライフケア学科 (2年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,710 単位時間/114 単位	1,470 単位時間 /98 単位	0 単位 時間 /0 単位	180 単位 時間 /12 単位	0 単位 時間 /0 単位	60 単位 時間 /4 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生 数	専任教員数	兼任教員 数	総教員数	
80人		15人	6人	2人	4人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
(概要) 全授業で小テストや中間テストなどを行うことで学生の習熟度を見逃さないようにしている。成績の維持向上が認められない場合は、課題を与えたり、生活の状況を把握することで自習時間の確保や生活状況の改善を促しているため、ご家族のご協力は欠かせない。また、法人系列の高等学校からの進学生も半数近く在籍していることから必要であれば高校の担任とも連絡を取り合い、場合によっては声がけをしてもらう協力体制がある。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	10人 (52.6%)	9人 (47.4%)
(主な就職、業界等) 病院・介護・福祉業界・販売業・税務会計・ホテル業界			
(就職指導内容) ・主に卒業生がお世話になっている企業からの求人 ・担任によるマンツーマンの履歴書・マナー・面接指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) ・医療秘書技能検定試験			

- ・秘書技能検定試験
- ・ワード文書処理技能検定試験
- ・エクセル表計算技能検定試験
- ・ビジネス能力検定 JOB Pass
- ・アロマセラピスト中級・上級
- ・リフレクソロジスト中級・上級
- ・グローバルビジネス検定
- ・日本語能力試験
- ・サービス接客検定

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	5人	14.7%
(中途退学の主な理由) <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中の就職希望 (保護者も同意) ・家庭内不和・経済的理由 (保護者は放置) ・保護者転勤による引っ越し 		
(中退防止・中退者支援のための取組) <p>少人数クラスということも幸いして、学生の変化には比較的早期に気付くことができている。全体で進めることが望ましいが、学生の特性を考慮し、勉強や就職活動において、その学生に合わせて進めることができているのが現状である。勉強が遅れている学生には補講等に対応もできるが、学生自身が投げ出してしまう場合、またご家庭の協力体制がない場合はやむを得ない結果が出てしまうこともある。</p>		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
商業		商業専門課程	ライフデザイン学科 (2年制)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,725時間/115単位	1,725単 位時間 /115単位	0単位時 間 /0単位	0単位時 間 /0単位	0単位時 間 /0単位	0単位時 間 /0単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
220人		110人	110人	5人	10人	15人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 小テスト・模擬試験・課題提出等で細かく、学生の習熟度を確認している。 担任制を取り、学生の勉強だけでなく生活面も指導・相談に乗っている。 日本語だけでなく、母国語での相談等ができるようにティーチングアシスタントを採用するなどして、母国の保護者とも連絡を取れる状態を作り協力体制を取っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
62人 (100%)	60人 (96.7%)	2人 (3.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 飲食業、IT業界			
(就職指導内容) アルバイトから社員登用			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本語能力試験			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
169 人	9 人	5.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更 体調不良による帰国治療		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制を取り、学生の変化に早く気づき対応する。 卒業生を TA(ティーチングアシスタント)として採用し、学生とのコミュニケーションを取りやすくしている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
柔道整復学科 (3年制)	600,000円	1240,000円	100,000円	
鍼灸学科 (3年制)	600,000円	1240,000円	100,000円	
ライフケア学科 (2年制)	100,000円	775,000円	75,000円	
ライフデザイン学科 (2年制)	100,000円	650,000円	150,000円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure03.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、当校と密接に関係する者の理解促進や学校運営の改善を図るために行う。 当校と直接関係のある学外の者を評価者として、学校関係者評価委員会を組織する。 その委員会は、①自己評価結果の評価、②施設の確認、③意見交換、④改善意見・助言の表明などを行う。 そして、これらを取りまとめ広く公表を行う。学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営・教育活動などについて具体的に改善を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
接骨院院長	2021年4月～2023年3月	卒業生
人材派遣会社	2021年4月～2023年3月	就職関係
鍼灸院経営	2021年4月～2023年3月	卒業生
町内会会長	2021年4月～2023年3月	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.niken.jp/assets/documents/file_disclosure13.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		



c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.niken.jp/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	日本健康医療専門学校
設置者名	創志学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		41人	40人	43人
内 訳	第Ⅰ区分	21人	21人	
	第Ⅱ区分	－人	13人	
	第Ⅲ区分	11人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				46人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	一人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。